

# 感染症危機管理と臨床検査部門の戦略的役割

永寿総合病院臨床検査科科长 原田典明

## 感染症と人類の戦い

感染症は、人類の歴史と常に並走してきた脅威です。ペスト、コレラ、天然痘、そして、1918年に世界的大流行を引き起こしたいわゆるスペインかぜなど、時代ごとに出現した感染症は、社会構造や価値観のみならず、医学・公衆衛生の発展そのものに大きな影響を与えてきました。

都市の衛生環境整備、上下水道の整備、検疫制度の確立なども感

染症との闘いの歴史のなかから生まれてきたものです。

18世紀末には、イギリスの医師であるエドワード・ジェンナーが種痘法を確立し、天然痘予防の道を開きました。さらに19世紀には、フランスの細菌学者ルイ・パスツールが狂犬病ワクチンを開発するなど、ワクチンは感染症制御の大きな武器となりました。

そして1928年、アレクサンダー・フレミングがペニシリンを発見したことにより、抗菌薬による治療という新たな時代が始まり

ました。これらの医学的進歩により、一時は「感染症は克服された」との認識が広がった時期もありました。

しかし、現実決して単純ではありませんでした。新興・再興感染症の出現、薬剤耐性菌の拡大など、感染症は形を変えながら現在も人類に大きな脅威を与え続けています。

2003年のSARS、12年のMERS、09年の新型インフルエンザ、そして19年末に出現したCOVID-19(病原体:SARS-CoV-2)



はらだ・のりあき ●1989年3月、学校法人田島学園東京医学技術専門学校卒業、89年、日本赤十字社東京都葛飾赤十字血液センター臨床検査課、92年、公益財団法人ライフ・エクステンション研究所付属永寿総合病院臨床検査科、2015年4月、同臨床検査科科长就任。22年4月、同診療支援部部长就任